

山口市からの情報発信を強化



五月の連休明けからコロナもその分類が第五類に変更され、マスクの着用も個人の自由になりました。急にコロナが無くなる訳ではありませんが、何か気持ちが楽になった様な気がします。ただ、安心は禁物です。会員の皆さんが個人で安全を確保してください。

去る3月25日(土)に七夕会本部・春の交流会が行われました。講演会では厚木市教育委員会あつぎ郷土博物館学芸員の飯田好人さんに「文士 大江広元と武士 毛利季光」という演題でご講演頂きました。「毛利氏のルーツの一つに神奈川県厚木」があるという講演内容で、前方のスクリーンには山根画伯作成の演題に合わせた地図が表示されたことも手伝い、ご参加頂いた会員の皆さんは熱心にお話に耳を傾けておられました。ご講演後の質問も、「時間の関係で・・・」と司会者が断りを伝える程に盛り上がりました。飯田講師のご都合で交流会にはご参加頂けませんでした。今後とも会員の皆様に興味のある講演を準備したいと考えています。なお8月5日(土)に予定している七夕会総会では、伊藤山口市長には通常お願いしている山口市の現状説明とは別に、歴史的な視点も加えた山口市についてのご講演をお願いしているところです。

講演会に続き交流会では皆さんご歓談のあと「じゃんけん大会」が行われ、山口市に因んだ商品が配られました。皆さんが久しぶりにコロナを忘れ、真剣に「じゃんけん」を楽しんでおられた姿が印象的でした。また恒例の岡本大先輩による謡曲ご披露があり、いつもの七夕会交流会の雰囲気盛り上げて下さいました。ただ残念ながら生憎の雨で、交流会後の「お花見ウォーキング」は中止になってしまいました。今年の東京は桜が長持ちして当日もまだ、花見に耐える状態だったので雨に濡れる桜が恨めしく感じました。

ところで七夕会幹事の方々が色々面白いイベントを企画しています。交流会に先立ち2月11日には「ウキウキ抽選会」と題して、山口ゆかりの品々を抽選で当てるというイベントを行い、YouTubeでの配信も行いました。山口ゆかりの品物を配ることで山口をより身近に感じて頂けるのではないかと企画立案です。七夕会幹事の皆さんが若い人たちの心に訴える企画をどんどん考え実行してくれています。新しい通信ネットワークを通じて若い人たちに七夕会企画への参加を呼び掛け、七夕会をさらに盛り上げて下さることを期待しています。新しい形での七夕会の運営をお願いする次第です。

最後に七夕会の機関紙「会報」への皆様からのご寄稿をお願いします。今後は会報の編集をふるさと山口本部にも手伝ってもらい、より山口市に関する現在・過去の情報の収集・拡大に期待したいと考えています。「ふるさと山口市の発展に寄与する」ために、今後とも七夕会を通じて努力して行きたく、会員皆様のご協力とご支援を賜りたいと思います。

令和5年(2023年)6月

山口七夕会 会長 秋草 史幸

< 目 次 >

頁1	秋草会長挨拶
頁2	目次
頁3	【特別寄稿】国宝瑠璃光寺五重塔・第2期クラウドファンディングへの参加のお願い
頁4～5	【エッセイ】山口発スイス演奏旅行日記
頁6	【エッセイ】私と山口
頁7	【エッセイ】ひとみそ会(首都圏地区)の集いあれこれ
頁8～9	【エッセイ】出会いは人生の綾
頁10	【エッセイ】引っ越し雑感
頁11	【リレーコラム】ふるさとの味めぐり ～懐かしい山口ならではの食をいつまでも～
頁12～13	【レポート】山口七夕会 Presents ウキウキ抽選会
頁14	【レポート】令和4年度山口七夕会ふるさと山口本部 酣祭「講演会・交流会」
頁15	【レポート】本部 春の交流会
頁16～17	【レポート】入間基地見学会参加記
頁18	【レポート】山口七夕会 親睦ゴルフ“第7回 八木重二郎杯”
頁19～20	【お知らせ】イベント予告・公開会員名簿への掲載承諾のお願い
頁 21	【重要】メールアドレス登録のお願い

※会報は山口七夕会のHPにもアップします。カラー版をHPでお楽しみ下さい。

特別寄稿

国宝瑠璃光寺五重塔・第2期クラウドファンディングへの参加のお願い

「国宝瑠璃光寺五重塔 令和の大改修」クラウドファンディングプロジェクト実行委員会

国宝瑠璃光寺五重塔は、「日本三名塔」の1つに数えられる山口市唯一の国宝であり、年間50万人を超える観光客が訪れる山口市の観光のシンボルです。1952年の全面葺き替えから約70年が経過し、経年劣化に加えて度重なる台風等による傷みが進行し、檜皮葺き屋根の全面葺き替えが必要な状況となりました。そのため、国・県・山口市から補助金を受け、保存修理事業を実施する運びとなりました。

この事業の実施にあたり、現時点で総額約7億6千万円の経費が見込まれており、国・県・山口市からの補助金をいただいても、なお多額の所有者負担金が必要であり、その額は瑠璃光寺や檀家だけで対応できる金額をはるかに超えています。そこで、山口市唯一の国宝であり、観光のシンボルでもある瑠璃光寺五重塔を守るため観光産業関係団体をはじめ山口七夕会が主体となって、クラウドファンディング実行委員会を設立し、この事業を支援することになりました。

クラウドファンディングについては、すでに第1期募集を2022年9月から11月末までの間で実施し、目標額2000万円に対して32%の達成率となり、まだまだ総工事費に対して不足している状況です。また、寄付申込者の内訳をみますと山口県内からの申し込みが最多でしたが、次に東京都、神奈川県、埼玉県と首都圏からの申し込みが多く、山口七夕会会員の皆様を中心に山口市にゆかりのある皆様方からの御支援が大きかったものと考えており、大変感謝申し上げます。

この事業の工事日程につきましては、2023年1月から準備工事を行い、2023年4月から2025年9月までの期間は足場を設置しての全面屋根の葺き替え工事、完成・竣工は2026年3月末の予定となっています。現在、五重塔はすでに工事フェンスに囲まれ、塔の荘厳な全姿は次第に見えなくなりつつあり、工事が無事終わり一日も早く新しく生まれ変わった五重塔の姿を目にできるよう待ち望んでいるところです。

クラウドファンディングにつきましては、今後、葺き替え工事の進捗にあわせて、第2期募集を2023年夏頃、第3期募集を2024年春頃に実施予定です。募集期間、返礼品等の内容が決まりましたら、実行委員会からあらためてお知らせする予定で特設サイトにアップしていきます。なお返礼品につきましては、1期につきましては、山口市出身のオリンピックメダリスト関係のお礼の品が主となっておりますが、2期は、瑠璃光寺に関係するお礼の品を中心に切り揃えていく予定となっております。

国宝瑠璃光寺五重塔は山口市唯一の国宝であり、山口市のみならず山口県が誇る観光のシンボルです。また、多くの市民に愛されている文化財でもあります。日本の宝でもある国宝瑠璃光寺五重塔を守り続けるため、必要不可欠な改修工事になります。瑠璃光寺五重塔を次世代へとつなげ、大内文化を残してゆくため、皆さまからのお力添えが必要です。温かい御支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



山口発スイス演奏旅行日記

棟久 佳代子（会員No.843）（新会員）

私は山口ミュージックアカデミーの代表、棟久佳代子と申します。子供たちの音楽指導、文化庁の事業で全国の学校へ訪問コンサート、海外から音楽家を山口に招いてコンサート等を行なっています。また子供たちを連れて海外での演奏旅行を、文化交流も含めて毎年実施しています。

今年は3月21日から4月1日までスイスへ行きました。参加者は、山口市内の小学生から大学生までの総勢11名。演奏旅行の最大の目的はスイスのバーゼル音楽大学が主催するコンサート、バーゼル小学校でのコンサート開催、日本とスイスとの文化交流です。



行ってきました（福岡空港）

3月21日

新山口駅を出発した一行は、福岡空港からスイスのチューリッヒ空港に向け旅立ちました。経由地のシンガポールは驚くほどの近未来で、マーライオンの像が建つマリーナベイサンズ地区のオフィス街には圧倒されるほど高層のビルが立ち並んでいました。（この一角に山口市のオフィスも入っているとか）

時差やトランジットの関係でチューリッヒ空港には3月22日朝8時頃に到着し、すぐに宿泊地のある、フランスとドイツとの国境の街であるバーゼルに移りました。スイスに居ながらフランスとドイツを見渡すことができ、島国の日本では体験できない経験をしました。



言語と音楽とダンスのレッスン

3月23日

午前中、リスター音楽学校で「言語、音楽とダンス」のレッスンをフランス語で受け、言語と音楽の持つ密接な関係を勉強しました。午後は夜のコンサートに向け、バーゼル音楽大学附属音楽学校へ向かい、リハーサルをしました。今回のコンサートは、打楽器を専攻している学生の皆さんとのコラボレーションです。ジョン・ケージの「57秒」という作品に参加しました。私達はわらべうたや日本の歌、ピアノやベルの演奏を披露しました。



折り紙文化交流

3月24日

バーゼル市内の小学校への訪問コンサートと文化交流をしました。歴史のある小学校の内装はシックで、15人ほどの少人数で

授業が行われる教室はとてもカラフルでした。ランチタイムには、近所のレストランのシェフが作る美味しい給食をいただきました。文化交流は折り紙講座を行い、初めての日本の文化体験にスイスの子供たちは大盛り上がりでした。

3月25日

リースタール音楽学校のフェスティバルに参加しました。様々なセクションの楽器体験や在校生によるアンサンブルコンサートを鑑賞し、ランチではソーセージを楽しみました。音楽学校は市町に必ず1校ずつあり、日本では珍しいハーブやアコーディオンの専攻もでき、小学校1年生から様々な楽器が習えます。何とも羨ましい限りです。

3月26日

ホームコンサートと寿司パーティー。日本の大学で教授をしているスイス人のお宅を訪問しました。手作りのチェリーパイで迎えてくれ、近所の人たちは30人以上が集まりました。私達はお礼にわらべうたやベル演奏をし、手巻き寿司を振る舞い楽しく過ごしました。



国立バーゼル音楽大学付属音楽学校でのコンサートの様子

3月27日

バイオリニストの友人の自宅に招かれ、本場イタリアのピザ職人が作るピザをご馳走になりました。

3月28日

今回の同行者に薬剤師と薬剤師を目指している小学生がいたため、世界的に有名な製薬会社ノバルティスの本社を見学しました。ノバルティスの本社は、一つの町が出来ているくらい広大なものでした。

3月29日

夏だけオープンしているプライベートの古城を見学しました。かつて夏だけ使われていたにも関わらず、ゴージャスな暖炉が一部屋に2個もあるのを見て笑いが止まりませんでした。

3月30日 全ての予定を計画通りに終了してチューリッヒ空港を出発し、

3月31日 経由地のシンガポールを経て、

4月1日 福岡空港に到着後に新幹線で新山口駅へ到着しました。

近年、新型コロナウイルスの影響で海外へ行くことのできない年もありましたが、制限もなくなり、久しぶりに海外に子供達を連れて行くことができました。コロナ禍では、リモートで海外のイベントに参加していましたが、実際に現地に行き、直接、海外の文化に触れることができたことは、参加した子供達にとってとても貴重な経験となりました。関わってくださったスイスの皆さんに感謝するとともに今後も山口市から日本の文化を海外に発信し、子供達に海外の文化を感じる機会を作る活動を続けていきたいと思っています。

私と山口

本廣 明美（会員No.837）（新会員）

はじめまして。昨年の11月よりこの山口七夕会に縁あって入ることになりました。現在山口市鑄銭司に在住し、大学で教鞭をとっております。どうぞよろしくお願いします。

私自身、中学時代からずっとこの山口市に住んでおり、結婚してからも子育て、仕事と、思い起こせばこの地で、半世紀以上もお世話になっています。この入会を機に、改めて山口はどんな市なのか考えてみました。

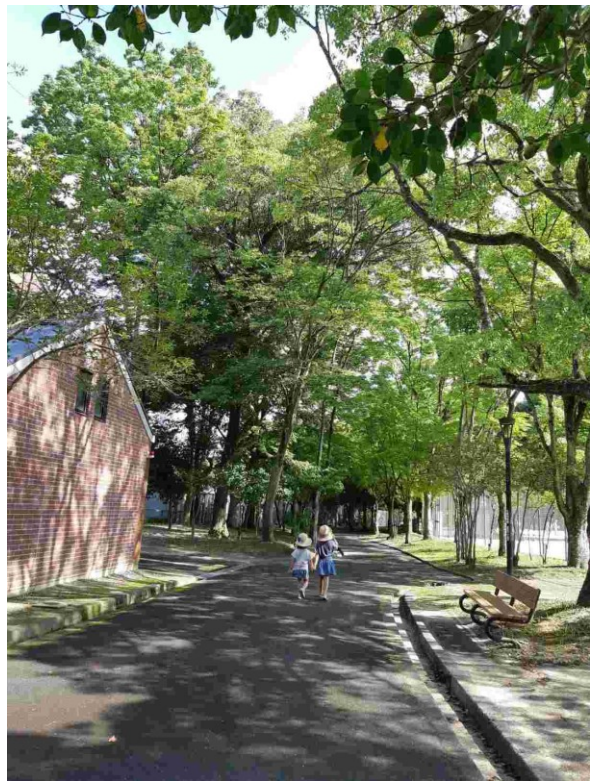
何と言っても豊かな自然があり、文化、歴史と、魅力的な要素が3拍子揃っているところですね。子育てするには自然災害も少なく温暖で住みやすく、都会ではないが生活に支障はなく、コミュニティもありとても安心・安全な所です。また、イメージとしては上品でアカデミックなところが私にとってとてもお気に入りの街なのです。まだまだありますが・・・。

子育て時代の山口との思い出の一コマを紹介したいと思います。後河原の上に住んでいたこともあり、その辺り一帯は今でも私の家族の一押しの場所ですね。中でも毎年11月3日の文化の日には“何かしら文化を感じてみよう”と子ども達と出かけるのが楽しみでした。パークロード沿いにある美術館に行ったり、一の坂川沿いにある赤レンガ、市民会館などに行ったりと、絵画展や演奏会または催し物を見ることを恒例の行事にしていました。

ある日の昼下がり、二人の子どもの手を引いてパークロードを県庁の方から下っていると、その沿道に三角形の宣伝用の街灯フラッグが等間隔に飾られ、その一際目立つ華やかさに心躍る気分になりました。それを数えながら、見上げたその旗越しに木々の葉がそよそよと揺れており、とても心地よい音を感じたことを覚えています。また、後河原の川のせせらぎの音を聞きながら木漏れ日の下を歩く時間はとてもゆったりと流れており、贅沢で豊かな時間だったことを思い出します。

さて、故坂本龍一さんの遺作となった、日記のように音で綴られた作品アルバム『12』や前作のアルバム『async』には彼の晩年の音楽観が如実に出ていますが、あるインタビューの中で、こう答えていました。「人間が作った音というのはあまりよくないものが多いですね。自然が作った音にそういうもの（よくない音）はあまりないです。」街角で流れる人工音やビートで刻む音ではなく、揺らぎを感じる音こそ素晴らしいと。そのお話を聞いて今まさに、あの時あの場所で、子どもと何気なく聞いた時の感覚や音が蘇ってきました。これこそが、坂本さんがネイチャーを取り入れ求め続けた原点の音ではないかと思うのです。

私も、山口はこのような「心のふるさとの音」がずっと身体に染み入る街だと思います。だからここが好きなのかもしれません。私自身これから先、世の中がいかに変わろうとも身近な音に耳を傾ける心に余裕を持ち、一緒に感動を共有する人がいて、笑顔がこぼれるそんな環境で過ごせていけたらと思っています。



みそひと会（首都圏地区）の集いあれこれ

小川 勝義（会員No.026）

それは2006年（平成18年）に始まった。まさに高齢者として定義づけられる65歳を超えてからのスタートだった。

「みそひと会」とは、現在の山口市立小郡中学校を1956年（昭和31年）に卒業した者達の同窓会の名称である。「みそひと」とは、昭和31年の三十一から命名したものである。その首都圏地区在住者の集いについて、幹事を務める者として、以下述べる。

当初7名でスタートしたが、高齢での開始の遅れを取り戻すかのように年々盛況となり、現在では20名を超える会員数となり、2019年までに14回の「集い」（都内のレストランなどで昼食会をしながらの懇談）を持つことができた。

この14回のうち、一度だけ宿泊を伴う「集い」があった。それは2008年のことで、小郡地区から11名の参加を得て、29名という多人数で夕食会の後、2ヶ所のホテルに宿泊した。翌日は国会議事堂内の見学、議員会館の安倍元総理事務所への訪問（当日は不在でお会いできなかったが、職員から所内の説明を受けた）、議員食堂での会食（その場で有名な議員と会話する人、メモする人あり）、その後は皇居内を多くの団体とともに参観した。後日参加者から、まるで修学旅行のように楽しかったとの感想を頂いた。



2019年の「集い」

コロナ禍により2019年から「集い」は中断しているが、第2回から葉（小冊子）を作成している。葉の内容は二つあり、一つは近況報告で、会員全員から近況やその時の思いなどを報告してもらっている。二つ目は「ふるさと文学者シリーズ」（文学者の生い立ち、生活歴、交友関係、文学作品などの記述）である。第一回目に取り上げたのは、ふるさと山口県出身ではないが、「みそひと会」の原点である、小郡中学校校歌作詞者土井晩翠である。その後は新山口駅を起点に山口線を辿る文学者（種田山頭火、中原中也、嘉村磯多など）を取り上げ、次に山口県全域に広げ（宇野千代、金子みすゞ、古川薫など）、2021年まで14名を数えた。

コロナで「集い」が開催できない3年間であったが、この間「近況報告」に面白いモノ、老いを感じさせるモノがあり、一部を紹介すると、

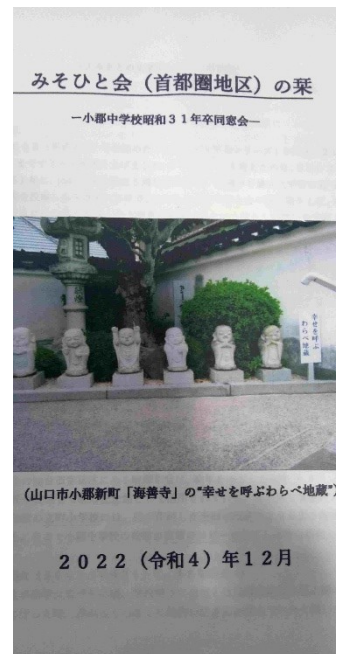
○今年の集いは中止と案内したが、後日「集い」はいつあるの？との問い合わせがあった。

○近況報告が遅れていますと督促すると、とっくの昔に送ったとの返事があったが、暫くして「それは別の会のものでした」とのお詫びの返事があった。

○老々介護は大変だけど、運動のためと考えると気分が楽になる。

○永年たくさん近況報告をしたので、もう報告することなし。来年もないと報告する予定！

コロナは落ち着きの兆しが見えてきたので、今年2023年を最後の「集い」として開催し、締めくくりたいと思っているが、果たしてどうなるか？開催したらどのくらいの参加者が集まるだろうか？



2022年の「葉」

出会いは人生の綾

土光 洋子（会員No.790）

昨年は私にとって嬉しいことが三つも重なる特別な年でした。一つ目は、品川に江戸時代から残る戸越八幡神社の由緒絵巻と天井画を奉納したこと。二つ目は、台湾の台南美術館が美人画「傾城松山」60号を所蔵してくれたこと。三つ目は、四年前から執筆を始めた「台湾・80歳から学んだ故郷」を出版したことです。

コロナ禍の三年間をステイホームに余儀なくされたことで、私は最も良い環境、つまり集中できる状況に置かれていたのだと思い返しています。これら三つの事柄は、全て偶然の出会いから生まれています。その経緯は私が求めたものでもなく、また作為したことでもないのです。

令和元年の春、東急五反田駅ホームで電車を待っていた時のことです。近くに立っていた女性から「素敵なお着物ですね」と、声を掛けられました。五反田で貸衣装店を営んでいる人でした。私は「母の残した古い着物で、刺繍の帯は自作ですの」と、たわいもない会話から縁が生まれ、ある時その方からバス旅行に誘われました。私に紹介したい人と3人同室の一泊旅行だと聞いていましたが、当日に彼女の姿はありません。

仮病で不参加になり、知らない同士の二人旅になりました。同室の女性は戸越八幡神社の宮司夫人（禰宜）でした。私達はすぐに意気投合し、その年の8月から毎月、御朱印帳に載せるための一言と季節の花の絵を描くことになりました。丁度その頃、老朽化した神社の改築の準備中で、一部の天井画を新しくするための絵を描いて欲しいと依頼を受け、奉納することになりました。



戸越八幡神社の天井画

平成28年秋に台湾の高雄のホテルで2度目の個展をした時のことです。3人のお供を従えた紳士が会場で足を止め、私の絵を見てくれました。差し出された名詞には「前司法院大法官副院長 城 仲模」と、ありました。私は流ちょうな日本語で話す紳士のお話を、お抹茶を立てながら聞いていました。「熊本には城の付く名前が多いでしょう？私の祖先は「城殿」と言っ、熊本から台湾に渡ってきたので、DNAは日本人です」と、親しげに話してくれました。次の日、お礼にと、台湾の銘茶がホテルの部屋に届きました。後日頂

いた自伝の書には、早稲田大学、東京大学大学院在学中の写真、クリントン、蔣経国、李登輝といったビッグネームとの写真もありました。城氏の紹介で台南美術館とのご縁が生まれました。台南は奇しくも私の生まれ故郷なのです。

興味があるものにはすぐに飛びつくのが私の悪い癖です。友人の勧めで「司馬会」に入会したのは六年くらい前のことです。講師は司馬さんが亡くなる最後の6年間で週刊朝日の司馬番として務められ、台湾にも同行された方です。受講生は皆さん司馬作品の大ファンばかりです。司馬さんの本を一冊も読んでいない私は、書店で一番薄っぺらくて一晩で読破できそうな本を買って帰りました。しかし、読破するどころか、難しくて1ページ読むにも時間がかかり、数ページで諦めて閉じてしま

いました。「空海の風景」と題する本でした。次の会の折、恥を忍んで先生に私に理解できる本を紹介してくださいとお願いしたところ、「街道をゆく 台湾紀行」を薦めてくださいました。夢中で読み終え、生まれも育ちも台湾なのに80歳過ぎまで台湾のことは何も知らず、知ろうともしなかった自分を恥ました。以来、図書館通いをして調べる中で一番疑問に思った点は、母から常々聞いていた蒋介石についてです。戦後、敗戦国となった日本に対し「以德報怨」を専伝し、賠償金の放棄、天皇制の存続、軍民の早期帰還等を実施した蒋介石を、母たちの時代の人々は敬意を表して亡くなっています。しかし、真相はそうではなかったようです。台湾における先人たちの偉業は消し去られ、東洋のヒトラーとも言われた彼の恐怖政治は38年間にわたり台湾の人々を苦難に追い込みました。これらの史実が忘れ去られることを危惧し、是非とも若い人たちに伝えなければならないという使命感が、日本と台湾関わった歴史のさわりを私の経験を通して書くきっかけになりました。タイトルは率直に「台湾 80歳から学んだ故郷」としました。

これら三つの出来事は、すべて偶然の出会いから始まったものです。出会いは人生そのものと言えるのではないのでしょうか。大事にしたいものです。



傾城松山（60号）

引っ越し雑感



自宅マンションのベランダから

副会長 渡邊 史信（会員No.364）

この4月の初めに東京品川を引き払って山口市中心部に移住し、大阪生まれの家内と愛犬も喜んで（仕方なく）山口暮らしを始めました。大学入学以来17回目がかつ14年ぶりの引越しでした。元々山口県で就職するつもりだった私が、山口を出てから大阪4年、宇部1年、静岡（国内留学）1年、欧州計14年、東京（含む千葉県）30年を経て、漸く残り少ない人生は終の棲家と定めた故郷山口で、というわけです。

以下今回の引越しを経た教訓です。

- 1) 引越しは若いうちに行うべし・・・体力なく、特に腰痛を再発す。結果無理した作業で体重が3週間で約6キロ減り、一方4月末の血液検査の様々な数値が大幅に改善し、望外の喜びも経験できた。
- 2) 引越しはする度により小さな家、又はより少ない収納の家に住むべし・・・多くの人から「断捨離のいい機会」とのアドバイスを頂戴し、耳にタコができたが、そう簡単にはできない。断捨離するにはそのためのスペースも必要。生活しながらダンボールを少しずつ積み重ねていかねばならず、元々そんな余裕のあるスペースがあるはずもない。幸い私は宇部にも自宅があり、一応2か所送付で山口には絞った量を持ち込むはずだったが、次に述べる理由で半分近く仕分けできず、結果殆どのガラクタをそのまま持ち込むことになった。従い、山口でダンボールを開いては、再度仕分けして、再パッキングし、自分の車で宇部に運ぶ羽目に陥った。
- 3) 引越しは終盤に大いなる負荷がかかり、予期せぬ事態で期待通りの作業ができない・・・引越し前日まで生活があり、全てをパッキングできない。更に家内の実兄が引越しの四日前に逝去し、二日前に葬式だった。こういう予期せぬことが起こる可能性があり、物事は計画通りには決して行かない事を覚悟しておくことも必要。
- 4) 引越しはしないことが最善。しかしいずれ必ずガラクタの仕分け・始末を誰かにしてもらう事になり、迷惑をかけることは覚悟すべし。今後毎日断捨離を少しずつやろうと思っている。思っているだけだが。欧州で入手し、大事に仕舞っていた多数の割れやすいガラスや陶器の食器を主に使用して生活しているが中々割れない。

ということで、山口に帰って良かった！ 特に山が身近に見える事、清流一の坂川や榎野川、適度な田舎さ。様々な知り合いの方に助けられています。新しい出会いもあり、又生まれそうです。大いに楽しみです。課題は夏の暑さと冬の寒さか。

～ふるさとの味めぐり～ 懐かしい山口ならではの食をいつまでも

矢吹 信子（会員No.637）

私は、人生の大半を県庁所在地である山口市で過ごしています。年々なじみの店が閉店... コロナ禍でさらに増えました。ここ最近行きたいお店が、考えると大変少なくなっています。

山口県は3面が海に囲まれており、新鮮な魚特に河豚、果物もリンゴやミカン、お酒にお菓子（外郎）も美味しい食べ物がたくさんあります。今や環境問題でもある温暖化が進んでくると、自然の恵みも当たり前前に食べられなくなってくるのかもしれない。

現在、私は整理収納アドバイザーとして県内で活動を行っており、日本は食糧自給率も低く、命と直結する食を大切にする取り組み、買い物から冷蔵庫整理、そして廃棄ではなく資源として堆肥（ダンボールコンポスト作成）にして循環させる『食ロスを家庭から減らす取り組み』を啓発しております。

30代の時に結婚して広島で暮らした折にすぐに子供を授かり、つわりがととてもひどく食欲もなかった時に中市にあります『山吹』という食事処、その「天とじそば」が無性に食べたくなりました。温かいだし入りのそばの上にふわふわ卵でとじた天ぷらがのっている絶品でした。残念ながら20年くらい前に閉店して今や食べることはできません。



山吹亭

それから、私の中学時代は給食がなくお弁当でした。お弁当がない日はパンを売店で買っていました。市役所前にある“モリパン“のパンです。メロンパン、カレーパン、クリーム・ジャムと昔ながらのなじみのあるお味です。その中でも「ハムカツパン」ドレッシングのきいた千切りキャベツとハムをフライしたものがはさんであってボリュームな感じ、これ1個で満足な昼食でした。店主のおばあちゃまの後を引き継がれた孫娘さん、当時のパンとは少し形や味は令和風に変革していますが、これからもずうっとのれんや味を引き継いで（サスティナブル）欲しいと思います。

いつまでもここでしか食べられないお店を守ってほしいものです。



モリのパン



ハムカツパン

山口七夕会 Presents ウキウキ抽選会

本部・幹事 岡崎 龍也（会員No.702）

山口七夕会初めてのイベント「山口七夕会 Presents ウキウキ抽選会」の実況生 YouTube 放送を 2023 年 2 月 11 日（土）14 時からミュージカンテアマネ（東京都北区）で行いました。

「山口七夕会 Presents ウキウキ抽選会」WEB サイトを開設、2022 年 12 月 21 日から応募開始、総勢 69 人の応募がありました。

山口市ゆかりの豪華商品は

- ① ちょっと豪華賞(20 名様)大内塗箸



《大内塗り箸》



《湯田の湯温泉の素》

- ② いった気分賞(20 名様)湯田の湯温泉の素(3 回分)
③ これは美味賞(10 名様)会員番号 No. 183 関和貴さん提供の高級ブランド米「田楽米(こしひかり)」2KG
④ サプライズ賞(10 名様)山口県東京事務所提供の「しそわかめ」
⑤ あると便利賞(100 名様)きつね足ぬぐい(手ぬぐい)



《田楽米》



《しそわかめ》



《きつね足ぬぐい（手ぬぐい）》

抽選会の賞品は、運営スタッフで事前に計画、用意したのですが、思わぬ嬉しいサプライズがありました。まず一つは、抽選会スタートの 2022 年 12 月 21 日、抽選会を SNS で知った会員 No. 183 関和貴さんから「徳佐で作っている田楽米を賞品として提供したい」というもの。精米し立てのお米 2 kg を 10 名に用意するということになり、抽選会の目玉商品（③これは美味賞）になりました。もう一つは、山口県東京事務所長、会員 No. 781 繁永 俊之さんが、抽選会当日にサプライズ賞として「しそわかめ」を 10 名分用意してくださったこと。みなさんの温かい気持ちにお腹いっぱい抽選会となりました。

抽選・放送日の前日、関東地方は積雪を伴う寒い日となり、東京周辺でも積雪がありましたが、参加の皆さんは厳しい寒さをものともせず来場されました。

MCは幹事長の関 周さん、軽妙なかにも山口愛を感じる熱いトーク、アシスタントは歌手デビューされている会員No. 842 吉田 美香さんです。

プレゼンターは秋草会長、①ちょっと豪華賞(20名様)大内塗箸の抽選を笑顔でされました。続いて奥原副会長の②いった気分賞(20名様)湯田の湯温泉の素(3回分)の抽選です。奥原副会長は足場の悪いなか栃木から出てこられました。当選番号が読み上げられると即座に番号が映像画面に表示されるシステムになっています。

この後はしばしブレイクタイム、「ふるさとの風 山口市民の歌」シンガーソングライター「ちひろ」さんの歌が流れます。



吉田さん 秋草会長 関さん

後半は本日の目玉商品③これは美味賞(10名様)高級ブランド米「田楽米(こしひかり)」の抽選を西村本部長代行が行います。そして、スペシャルゲストの山口県東京事務所長、繁永 俊之さんの④サプライズ賞、萩 井上商店「しそわかめ」の抽選です。

最後に藤井本部長が登場、⑤あると便利賞(100名様)きつね足ぬぐい(手ぬぐい)は抽選に漏れた方全員に提供されることになりました。藤井本部長より締めのご挨拶をいただき抽選会は熱狂のうちに終了しました。



繁永山口県東京事務所長

放送ディレクターは株式会社メディアムーラ代表取締役の村山 敦さん、以前は日本テレビのスポーツ中継などで活躍してこられた方です。関幹事長との縁で本イベントにご協力していただくことになりましたが、最新の放送機材を駆使して円滑な運営と中継をしていただきました。

当日の様子は、「山口七夕会」で検索すると「山口七夕会 presents ウキウキ抽選会」サイトが表示されますから、そちらからどうぞ。



メディアムーラ 村上さん

令和4年度山口七夕会ふるさと山口本部 酎祭「講演会・交流会」

ふるさと山口本部・副本部長 庄 栄一郎（会員No.475）

令和5年3月11日(土)18時から、湯田温泉の「セントコア山口」で、講演会、交流会が78名と、過去最高の参加人数で開催された。

講演会に先立ち、前夜WBC日韓戦の応援で大酒を飲み朝寝坊した申神本部長から、「お酒は幸せにしてくれる命の水である」と挨拶。伊藤市長からは、阿東のリンゴでシードルを作り、総務大臣表彰を受賞した原田尚美さんにお祝いの言葉。七夕会のメンバーから地域づくり活動の花を咲かせ実を实らせる方が出てきたことは素敵なこと。これには周りのサポートの力もあったはず。そういったゆるやかなネットワークの力が都市の力になり、行政としても出過ぎない範囲で上手にサポートできれば、と挨拶があった。

18時10分より、演題「酒を読む」で金光一昭さん(FMやまぐちをR4.7月に退社、R4.8月より株式会社「SWING E.C.」代表取締役)の講演。日本酒の専門家ではなく、ただの酒好きの金光さんに講師をお願いしたのは、山頭火で有名な金光酒造(山口市嘉川)と名前が同じ、ということで申神本部長が依頼。

金光さんの切り口で酒に纏わるお話。

- ・中原中也は「帰郷」で「ふるさと」について詠んでいるが、中原中也の誕生日4/29に山頭火は『ふるさとはすっかり葉桜のまぶしさに』と「ふるさと」について詠んでいる。
- ・金光さんの好きなお酒の曲の紹介として河島英五「酒と泪と男と女」。河島さんが18歳の時に作った詩で「ねむる」を永眠の意味もある「眠る」ではなく「寝むる」としている。
- ・旧制第一高等学校寮歌「ああ玉杯に花うけて」の歌詞の『嗚呼玉杯に花うけて緑酒に・・・』は『お気に入りの盃にお気に入りの酒を入れて・・・』という意味。
- ・「緑酒」(お気に入りの酒)絡みで「東京事変」の「緑酒」の綺麗な映像も紹介。
- ・最後は、江戸川柳『酒なくて何の己が桜かな』で締められる。

文学性が高く、教養になる講演だった。

講演終了後、金光酒造『山頭火日々の酒三六五句』の3/11の日のラベルのお酒が、お礼に七夕会より金光さんに贈呈された。

同会場で19時10分から交流会。

まずは伊藤市長、入江議長、福田百合子先生、金光さんにより「1、2、3ヨイショ!」の掛け声で鏡開き。樽がなかなか割れず何回もトライ。原田尚美さんより、令和4年度総務省「ふるさとづくり大賞」個人賞(総務大臣表彰)受賞報告後、入江議長のご乾杯で開会。乾杯のお酒は原田尚美さんのKAZEシードル。料理は地産地消の食材を使い、ビッフェ方式。防府市の竹内酒造、山口市嘉川の金光酒造のブースも設けられた。

余興は「日本酒の試飲クイズ」。山口市内の3種類のお酒、「わかむすめ」、「山頭火」、「杉姫」を試飲して当てるもの。

ジャンケン大会は、竹内酒造、金光酒造のお酒の他、旭水産の八木さんより車えび、関さんより徳佐のコシヒカリ「田楽米」、セントコア山口様より入浴券を無償で提供していただき、申神本部長の音頭で。

総踊りは、4/2 湯田温泉白狐まつりの総踊り曲「湯田温泉にKON来ん?」と「狐ダンス」。

21時10分、嘉瀬日本酒部会長からお礼の挨拶と10/1にある「日本酒で乾杯」のイベントの紹介がされ締めくくられた。



参加者全員でコンコンの「狐ポーズ」

本部 春の交流会

本部・本部長代行 西村 弘文（会員No.464）

例年よりもかなり早い3月14日に開花した桜がほぼ満開を迎えた令和5年3月25日（土）、飯田橋のインテリジェントロビー・ルコにて本部 春の交流会が開催されました。講演会と交流会に引き続き企画した「春のお花見ウォーキング」は、朝からの冷たい雨により、残念ながら中止となりましたが、室内企画には43名の参加を得ました。

藤井本部長による開会の宣言と秋草会長からの挨拶に引き続き、講演会が開始されました。今回の講師は「あつぎ郷土博物館」の学芸員である飯田 好人さんで、「文士・大江広元と武士・毛利李光」の演題で厚木市と山口県の関わりについて語られました。



秋草会長の挨拶

今回の講演は、厚木市の藤井 尊弘さんの計らいで実現しました。藤井さんは正業の傍ら「厚木毛利氏プロジェクト」（詳しくは、HP参照）の主催代表であり、厚木市在住の山口七夕会会員でもあります。母親が防府市出身であることから、厚木市と防府市の姉妹都市化のために活動されてきたところ、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」のキーパーソンでもある大江広元と毛利氏との深い繋がりを広く知らしめたいと、本講演会への講師派遣に尽力して下さいました。

飯田講師のお話では、「吾妻鏡」による時代考証を交えながら、文士であった広元は政所別当という最高位の職位にありながらも、鎌倉殿直属の家臣である御家人として同格であるはずの「文士」と「武士」の立ち位置が次第に武士上位に変わり行く状況に対するジレンマを感じる中、子孫が軽視されることを懸念して一族を「武士」グループに偏位させることを画策したことや、広元の四男である李光が承久の乱の軍功を経て厚木毛利荘の他に越後佐橋荘及び安芸吉田荘を拝領し、宝治合戦で李光が討ち死ににして毛利荘を没収される中、李光の四男である時親が安芸吉田荘を引き継いで安芸毛利となり、長州毛利藩に繋がっていったことが述べられました。毛利氏を紐帯として山口県と厚木市との強い繋がりと共に、鎌倉殿の執権として武家社会の成立を大江氏が支え、江戸時代という最後の武家社会の終焉を大江氏の子孫である毛利氏（長州）が主導したアイロニーを感じた講演でした。



飯田さんによる講演

交流会は本部長の開会宣言に続き、いつものように和気藹々とした雰囲気ですし、久しぶりに会う会員が会話を楽しましました。前回との違いは、コロナ対策のシールドがなくなり、話がしやすくなったところでしょうか。また、今回は、先日台湾を題材とする本を出版された、日本画家・土光 洋子さんのスピーチと、山口の「株式会社竹内酒造場」から参加の竹内兄妹による日本酒「錦世界」のサーブがありました。最後は、恒例となった岡本さんによる謡の舞でめでたく締めとなりました。



W TAKEUCHI

次の集まりは8月5日（土）、夏の総会になります。多くの方々の参加を期待しています。

人間基地見学会 参加記

柳井 章雄（会員No.458）

令和5年4月20日（木）に行われた人間基地見学会に参加しました。参加者は秋草、石田、奥原、利重、西村、本田夫妻、柳井の8名（あいうえお順）（敬称略）

時程は次のとおり。

09:30～09:40	受付、入門（稲荷山門）
09:50～11:20	修武台記念館見学
11:30～12:00	航空機見学（C1輸送機）
12:10～12:35	厚生センター（お土産等を購入）
12:40～13:00	体験喫茶（隊員食堂）（420円！）

のどかな稲荷山公園駅（西武池袋線）に集合し徒歩約10分で受付入口に到着。絶好の見学日和。須田3佐（人間基地渉外班長）のお出迎えを受け、マイクロバスで見学スタート。見学予定のC2輸送機が都合によりC1輸送機に変更になったとの事。（推測ですが、スーダン内戦で国外脱出出来ずにいる邦人救出に向かう為の待機。ご苦勞様です。）

最初の修武台記念館では館内案内担当の女性事務官の出迎えを受け、先ず館内案内映像を見て見学を開始。見応えのある物が沢山ありビックリする物もあり、もっとゆっくり見たかったのだが、そうすると1日では無理だと分かったものの、心残り。明治時代から現代迄の歴史をゆっくりと見たかった。改めて残念。

驚いた展示品（一部）

- ・栄 誉エンジン（実物）（主に戦闘機、隼、零戦に搭載）
- ・加藤隼戦闘機隊の加藤隊長実際着用の大礼服、コート、軍服他（実物）
- ・ロケット特攻機 桜花（実物）

特攻機桜花を見た時は、かなり前に見たドキュメンタリーを思い出しました。

「戸籍も分からず、住民票も無く、戦後長年夫婦として暮らした亡くなった夫は一体誰だったの？」との内容で、僅かに残されていた遺品の手がかりから、漸く分かったのは、「特攻機攻撃を強く主張し、戦後暫くして行方知れずとなってしまう元将校だった。」との内容で、今でも心に強く残る番組でした。沖縄戦で米軍最高司令官の大将が戦死する前代未聞の激戦が繰り広げられていた事を考えると複雑な心境。平和ボケ日本が浮かび上がって来ました。



修武台記念館の展示場



ロケット特攻機 桜花

次に、C 1 輸送機の操縦席にも座らせてもらえる機内見学。私も、機長席に座らせて頂いた。このまま操縦して飛んでみたくなる、当然無理なこと！（でも、飛ばしてみたかった。）

搭乗前に受けたC 1に関する案内の中で、輸送機にしてはやけに航続距離が短いなと思っていたところ、政治の影響で短くされてしまったのではとの話があり納得。「他国侵略目的」とマスコミと野党が迫及していた事を思い出しました。

厚生センターでのお土産タイムで、私は米軍のサンダーバード（アクロバット飛行チーム）とコラボのキャップ他を購入。

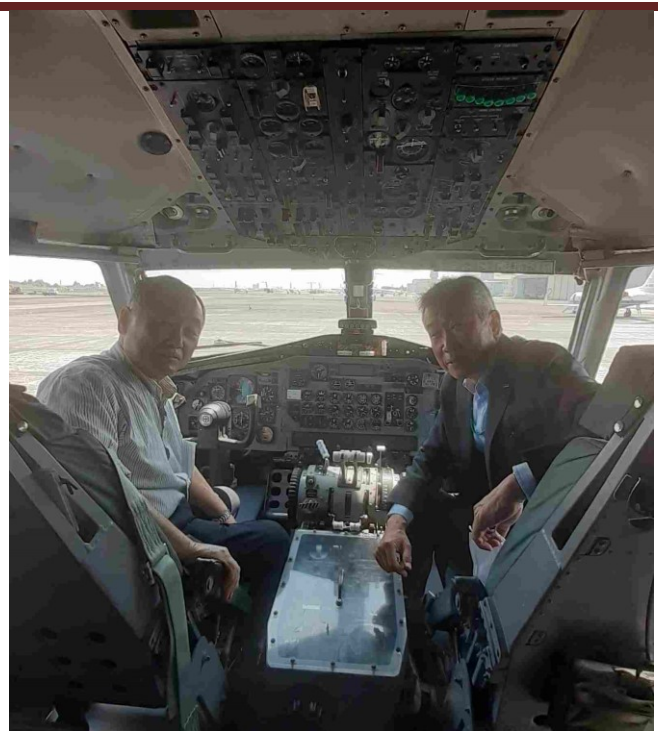
最後はお楽しみの入間基地隊員食堂のランチ。420円なのに予想を大きく上回るビックリなボリューム、味、内容。厨房の方々の努力がハッキリ分かりました。（小生、弁当会社でアルバイトをしていた経験もあり、食い地も張っているのだ。）

海上自衛隊は昔の海軍の伝統を引き継ぎ毎週、基地独自の味のカレー日のとなっているが、海上自衛隊以外の基地では、カレーの提供は無いのでしょうかと質問したところ、有りとの回答有り。提供曜日、味は基地によりバラバラとの事。これも食べてみたい。

今回、自衛隊基地と言う事で、堅苦しい所ではと思っていたが、予想は大きく裏切られ、雰囲気よく、整然と仲良く和気あいあいとしていました。しかも、しっかりキッチンと運営されているとの印象を受けました。日本の防衛、宜しくお願いします。

基地内案内で乗せて頂いたマイクロバスも年季が入っていましたが、丁寧にキッチンと大切に整備手入れがされているのが分かりました。

順調に基地見学を終える事が出来、皆さん満足して解散。アレンジして頂いた西村 弘文さんに感謝。



C-1 輸送機のコックピット



C-1 輸送機をバックに集合写真



隊員と同じ昼食

山口七夕会 親睦ゴルフ“第7回 八木重二郎杯”

本部・本部長 藤井 謙志（会員No.611）

令和5年4月の最終週は雨が続く日々でしたが、親睦ゴルフ当日の4月28日(金)だけは雲一つない快晴に恵まれ、山口七夕会の親睦ゴルフ「第7回 八木重二郎杯」を無事開催する事ができました。晴天に恵まれましたのも七夕会会員の皆さまの日ごろの行いのお蔭と感謝申し上げます。ゴルフコースは皆様お気に入り、いつものPGM 武蔵ゴルフクラブ（Regular 6,008 ヤード、パー72、PGA 初代会長 安田幸吉 設計、埼玉県比企郡鳩山町大字小用 1026 番地）です。

朝、キャディマスター室前に集合し、八木重二郎さんからのご挨拶を頂いたのち、山口七夕会の旗と集合写真撮影をし、IN スタートのディーグラウンドへ移動しました。

今回は2名の初参加の方をお迎えしての開催となりました。一人は山口大学経済学部同窓会“鳳陽会”東京支部事務局長の葛見雅之さんです。今後、山口七夕会と鳳陽会との連携もお願いしております。過去に優勝経験のある松本さんと仲良しとの事で、今回同組でのラウンドとなりました。もう一人の初参加の方はフリーアナウンサーで気象予報士の中川裕子さんです。東京出身ですが、山口が大好きで過去、ルネッサ長門で安倍昭恵さんとトークセッションをされたこともあります。今回ご本人としては記念すべきコースデビューでもありました。この日の為にニューのCallaway ドライバー持参でやる気満々です。前回やむを得ず欠席された八木重二郎さんも今回はポータブルマッサージ機持参で万全の態勢です。

お天気が良く、風があったためスティンプメーターは10フィートと早めのグリーンでしたが、白内障の手術を終え視力を取り戻した松本さんのパットが絶好調、前半は各ホールほぼ1パット、前半スコアは5オーバー、このペースで後半も回ればシングルの可能性もあるかと思われた、ご本人も驚きのコンディションでした。コースデビューの中川さんはショット練習場の使い方やパッティング練習場のマナー、カートの使い方やスコア入力、閲覧方法等を学びながらの初ラウンドとなりました。キャディさんからのちょっと厳しめの指導を受けながらのラウンドで心配しましたが、ホールアウト後にご本人に感想をお聞きすると「普段の練習場と実際の現場は全然違いました。また参加させて下さい。」と普段芸能界で鍛えられているだけにガッツがあり安心しました。

今回も皆さま和気あいあいにラウンドを楽しんでホールアウト後、簡素化した表彰式を行いました。今回の栄えある優勝は武内さんでした。武内さんは2回目の優勝となります。準優勝は2回目参加の杉川さん、初参加のお二人は、葛見さんが3位、中川さんは八木さんから特別に敢闘賞を受賞されました。おめでとうございます。

次回開催は令和5年11月2日(木)を予定しております。初参加大歓迎ですので、皆さまの奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

※今回のご参加者：八木重二郎さん、梅田圭良さん、武内浩さん、松本孝亮、葛見雅之さん、利重尚義さん、杉川明さん、大枝幹夫さん、中川裕子さん、藤井謙志（幹事）



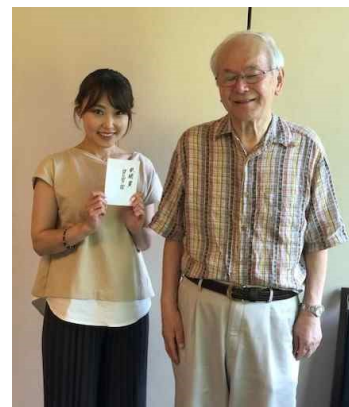
開会式後の集合写真



優勝：武内さん



順優勝：杉川さん



敢闘賞：中川さん

<新入会員(個人会員番号・氏名)及び法人会員の皆さん>

現在、個人情報保護に関する規則を整備中のため、態勢完了まで本コーナーは休止します。

令和5年5月末現在の会員数:個人会員381人、法人会員22法人

< 会報山口七夕会への投稿を募集します >

1. 大使の一言(「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)
2. 私の一言(会員の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)

★テーマの一例

- (1) 山口市に関する豆知識
- (2) 山口県外にある山口ゆかりのものや活動
- (3) 今、思っていること

★字数

1,200 字程度の文章と写真 2 枚程度を基準。紙面構成上、フォント、行間等を調整します。

★投稿締切

5月中旬、8月中旬、12月中旬

★投稿提出先

下記に電子データ(Word、テキスト形式など)でお送りください。

会報山口七夕会編集長:ssho04281103@hi.enjoy.ne.jp

< イベント予告 ・ ふるさと山口本部 >

< 夏の講演会・交流会 >

日時：令和5年8月19日(土) 講演会 18:00~19:00 交流会 19:00~21:00

場所：菜香亭

山口市天花 1-2-7

講演：金子みずぶ生誕120年「みずぶさんを深掘り！」

講師：シンガーソングライター・ラジオパーソナリティ ちひろ 氏

会費：7,000 円(講演会のみは1,000 円)

詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

お申込みは、同封のチラシを参照の上、8月12日(土)までをお願いします。

< イベント予告 ・ 本部 >

< 令和5年度山口七夕会年次総会 >

日時：令和5年8月5日（土）総会 10:30～12:05 講演会 12:20～13:10 交流会 13:20～14:30

場所：「インテリジェントロビー・ルコ」

東京都新宿区揚場町 2-1 軽子坂MNビル 1F （JR/地下鉄 飯田橋）

講演：大内文化と山口市（仮）

講師：山口市長 伊藤 和貴 氏

会費：5,000 円（交流会不参加及び学生の方は 1,000 円）

詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

お申込みは、同封のチラシを参照の上、7月15日（土）までにお願いします。

●スマホでこちらから簡単に申込みできます！

右のQRコードを読み込んで下さい。



< 重要 > < 公開会員名簿への掲載承諾のお願い >

会員相互の交流促進や会の活性化に役立てばと、記載事項を限定した「公開会員名簿」を作成・発行します。作成に当たり、名簿への記載についての承諾を個別に頂きたく、趣旨及び通知の要領についての文書を前号（1月号）に掲載しましたが、通知者は70名ほどの状況です。

趣旨に賛同していただける方は、記載を承諾する旨を下記まで連絡願います。

「公開名簿で懐かしい名前を見つけて連絡したところ、交流が再開した。」といったことになればと考えています。

記

メールの場合：seki@8011.jp（関 周 宛）

郵送の場合：〒114-0034 北区上十条 3-3-16 関 周 宛

<重要> < メールアドレス登録のお願い >

2023 年、山口七夕会はライブや各種イベント、ウェブ抽選会など「新しい企画」にどんどん取り組んでいきます。

新しい企画はメールを主用してご案内していきますので、メールアドレスの登録をお願いします。

現状、個人会員 382 名のうちでメールアドレスを登録されている方は 251 名ですが、その内の 37 名は送信不能ですので、既に登録されている方も確認のため再度登録をお願いします。

【登録方法】

●QRコードリーダ付きのスマートフォンから登録される方は、右のQRコードを読み込んで下さい。



●パソコンから登録される方は、本文にご自分のメールアドレスを入力して、「seki@8011.jp」にメールを送信して下さい。

【編集後記】

これまで梅雨と言えば鬱陶しい印象でしたが、近年は線状降水帯による豪雨災害が多発し、恐怖の対象になってきました。今年の梅雨明けは7月19日の見込みだとか。あと3週間ほどありますが、会員の皆様のご息災を祈念してやみません。ちなみに、我が家の狭い玄関には避難セットが置いてあります。

今回は、新入会員の一言を通り越して、二言的な長文を2編頂きました。皆さんの考えや意見を積極的に寄稿していただき大変うれしく思っています。

組織論ではリーダーシップ、フォロワーシップがよく使われますが、当会のような任意団体ではメンバーシップが大切だと思います。一人一人が参加意識を持つことで連帯感が醸成され、連帯感が組織を活性化させるものと思っています。寄稿を通じた意見発表は参加意識の表れだと思います。これが活性化の万能薬ではないでしょうが、一助になることは間違いないと思っています。引き続き、寄稿をお待ちしています。

編集長(本部・本部長代行) 西村弘文

【事務局からのご案内】

◎転居されるご予約のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと会報 山口七夕会や市報等の資料が届かなくなってしまう)

◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

★事務局(山口市企画経営課内)

〒753-8650 山口市亀山町2番1号

TEL 083-934-2746

kikaku@city.yamaguchi.lg.jp